

**船橋在宅医療**

**ひまわりネットワーク**

**第2回実践発表会プログラム**

『ひまわりネットワーク 10周年を迎えて』  
—目指す医療・介護連携，今再び手を取り合っ—

令和6年2月18日（日）13時00分～17時10分

（開場・ポスター見学：12時00分～）

船橋市中央公民館 6階講堂ほか

船橋市本町2-2-5



**船橋在宅医療**

**ひまわりネットワーク**

# — 目 次 —

実践発表会概要、注意事項について	P1
市長挨拶	P2
船橋在宅医療ひまわりネットワーク代表挨拶	P3
会場案内図	P4
船橋在宅医療ひまわりネットワークとは	P5
活動の経緯	P6
活動実績	P7~P10
船橋市在宅医療・介護連携支援用患者情報共有システム	P11
在宅医療支援拠点ふなぽーとは	P12
実践発表会 タイムスケジュール	P13
演題の紹介	P14~P19
メモ	P20~P21
裏表紙	： 船橋在宅医療ひまわりネットワーク構成団体

# ～実践発表会概要、注意事項について～

## < 実 践 発 表 会 概 要 >

名 称：船橋在宅医療ひまわりネットワーク第2回実践発表会  
『 ひまわりネットワーク 10周年を迎えて 』  
－目指す医療・介護連携，今再び手を取り合って－  
日 時：令和6年2月18日（日） 13時00分～17時10分  
（開場及びポスター見学は12時00分～）  
開会式 13時00分～  
基調講演 13時10分～  
テーマ「ひまわりネットワークの10年と  
在宅などに役立つクリニカルパール（秘密の処方箋）」  
演題発表（口述発表） 14時20分～  
閉 会 17時10分  
会 場：船橋市中央公民館 6階講堂・6階ロビー及び5階第3・第4集会室  
主 催：船橋在宅医療ひまわりネットワーク

## < 注 意 事 項 >

- 受付について  
6階ロビーにて受付を行います。開場と同時にポスター見学が可能です。
- 演題発表（口述発表）について（13ページ参照）  
1演題の発表時間は質疑を含めて10分を目安に行います。状況により、質疑時間がとれない場合があります。
- ポスター前の質疑応答について（13ページ参照）  
演題の口述発表に関する質問は、各ブロックの口述発表後の休憩時間にポスター前で演題発表者が回答します。各々の演題のポスター掲示場所は、4ページの会場案内図もしくはは会場内の掲示をご確認下さい。
- 発表に関連する資料の配布について  
市および演題発表者等の資料を、会場内の資料コーナーに配架しています
- 電話の使用、録音・録画について  
会場内での携帯電話は電源をお切りいただくか、マナーモードに設定してください。  
また、演題発表の内容や発表中の演者を無断で撮影・複写・複製（録画・録音・スクリーンショット・コピーなど）することはお控えください。各々の演題のポスター掲示内容の撮影は、演題発表者等に許可を得てください。
- 会場内での食事について  
講演・演題発表中の会場内において、食事を摂ることはお控えください。

# ご挨拶

船橋市長 松戸 徹



日頃より、在宅医療・介護関係者皆さまにおかれましては、本市の医療・介護・福祉をはじめとした市政運営にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

船橋市では、高齢になっても、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、「住まい」、「予防（介護予防）」、「生活支援」、「介護」、「医療」の5つのサービスが一体的に提供される地域包括ケアシステムのさらなる推進に向けて取り組んでいます。その要となる船橋在宅医療ひまわりネットワークは、平成25年5月に在宅医療の取組みを推進するため、医療・介護の関係者の皆さまと本市で構成する任意団体として設立され、今年度で10年を迎えました。現在、医療、介護の職能団体及び施設団体や医療機関等、28の構成団体にて活動を行っています。

昨今、全国的に少子高齢化が進んでいる中、船橋市でも、現在の高齢化率は24%となっています。今後、急速に高齢化が進み、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増え、医療や介護のサービスが必要となる方の増加も見込まれています。

今回の実践発表会が船橋市の在宅医療や介護関係者皆様の取り組みを知り、知識を深める機会となることで、さらなるネットワークや支援体制の強化につながるのと同時に、ご本人とご家族の皆様が安心してかつ適切に医療や介護のサービスを受けられる地域の構築につながりますようお願いしております。

皆様におかれましては当ひまわりネットワークの活動の一層のご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

令和6年2月

# ご挨拶

船橋在宅医療ひまわりネットワーク

代 表 玉元 弘次



船橋在宅医療ひまわりネットワーク第2回実践発表会へご来場いただきありがとうございます。

今回の実践発表会は、『ひまわりネットワーク10周年を迎えて 一目指す医療・介護連携、今再び手を取り合って一』をテーマに行ないます。

船橋在宅医療ひまわりネットワークは、平成25年5月の発足から10年が経過しました。これまで地域包括ケアシステム構築のため、在宅医療介護等関係者が集まり、質の向上に向け体系化した研修会の開催や各機関・専門職の連携の促進、地域リハビリテーションの推進、市民に向けた看取りや認知症に関する講演等多々の活動を行い、「在宅医療・介護連携の心得」「ひまわりシート」「在宅医療・緩和ケアリハビリマップ」などの成果物も作成してきました。船橋市在宅医療支援拠点ふなぽーと事業と連動しながら、船橋市の在宅医療・介護連携の推進を図って参りました。

実践発表会では、これまでの10年間を振り返り、ひまわりネットワークを構成する6委員会ならびに市内の医療機関、介護事業所、職能団体等による様々な活動についての発表が行われますので是非ご聴講ください。

これを機会に、一層の医療・介護の連携を目指し、この先本格的に訪れる高齢化社会に向けて、今再び手を取り合って共に歩んでいきたいと思っております。

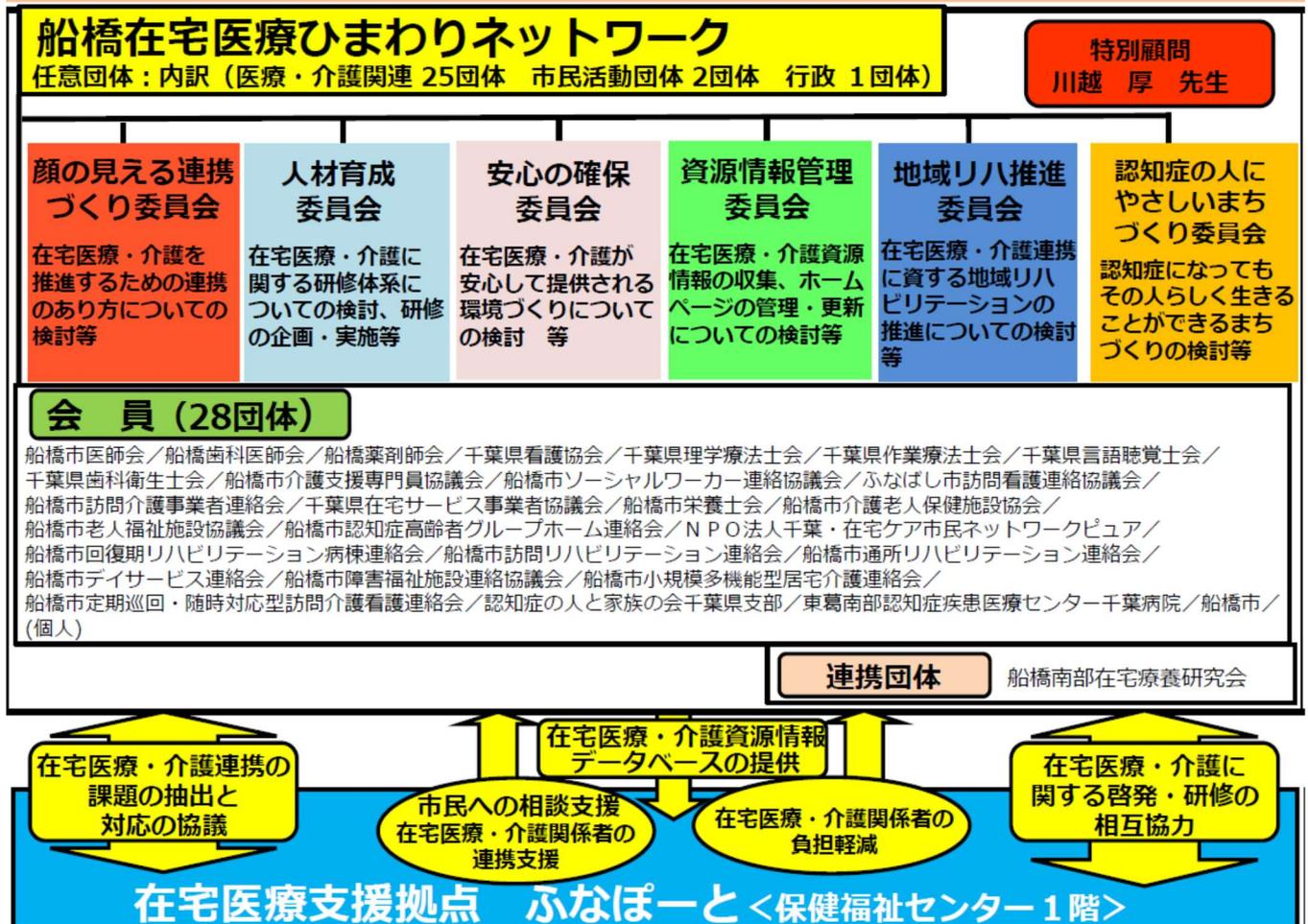
令和6年2月



# 船橋在宅医療 ひまわりネットワークとは

平成25年5月に設立された、28の医療・介護関係者及び行政(船橋市)で組織する任意団体です。今後の急速な高齢化に備え、地域包括ケアシステムの核となる在宅医療の充実と医療・介護の連携を推進するために、顔の見える連携づくり、人材の育成、在宅医療提供時における支援体制の検討等の活動を行っています。

## 船橋在宅医療ひまわりネットワークの活動



### ホームページ

URL : <https://himawarinet.jp/>

船橋在宅医療ひまわりネットワークでは、ホームページを運営しており、ひまわりネットワークの取り組みや構成団体のご紹介、直近の研修会や講演会のご案内を掲載しております。

こちらのコードより  
船橋在宅医療ひまわりネットワーク  
ホームページにアクセス可能です。



# 活動の経緯

- 2013年（平成25年）5月 ◆船橋在宅医療ひまわりネットワーク設立総会（19団体）  
代表 玉元 弘次 氏
- 2014年（平成26年） ◆①在宅医療支援拠点のあり方委員会、②顔の見える連携づくり委員会、③人材育成委員会④安心の確保委員会⑤資源情報管理委員会の5委員会で稼働  
◆第2回船橋市地域包括ケア推進講演会開催
- 2015年（平成27年） ◆安心の確保委員会 講演会を開催、以後市民公開講座を毎年11月に保健福祉センター大会議室で開催  
◆人材育成委員会 第1回症例検討会を開催。各職種の在宅医療・介護連携に必要なスタートアップ編や実践編等の研修体系を構築
- 2016年（平成28年） ◆船橋市地域リハ研究会がひまわりの第5委員会として「地域リハ推進委員会」として活動開始  
◆安心の確保委員会「ひまわりシート」、人材育成委員会「ひまわりポイント」を作成、運用開始  
◆顔の見える連携づくり委員会「在宅医療・介護連携の心得」作成、病院説明会、会員向け説明会実施  
◆東京ビックサイトにて開催された第12回在宅医療推進フォーラム「在宅医療が支えるまちづくり」でひまわりの活動を発表  
演者：玉元代表・松戸市長
- 2017年（平成29年） ◆資源情報管理委員会 船橋在宅医療・緩和ケア提供機関マップ「ひまわりマップ」を作成・発行
- 2018年（平成30年） ◆上記マップにリハビリテーション機関を追加、さらに冊子版を発行  
◆地域リハ推進委員会「地域リハ推進委員会ニュース vol.1」を発刊
- 2019年（令和元年） ◆船橋市認知症ネットワーク研究会がひまわりの第6委員会「認知症の人にやさしいまちづくり委員会」として活動開始 認知症シンポジウムは当委員会にて開催  
◆構成団体が28団体となる。  
◆第1回実践発表会を保健福祉センターにて開催
- 2020年（令和2年） ◆上記マップのWeb版を提供開始  
◆各委員会にて様々な意見交換、研修会や活動を行っている。  
～

# 活動実績

## 【ひまわりマップ】



## 【ひまわりシート】



市内の在宅医療・緩和ケア、リハビリテーションを提供している病院、診療所、歯科診療所、保険薬局、訪問看護ステーション、介護老人保健施設等にアンケート調査し、提供機関マップと実施状況一覧の冊子を作成し、医療・介護関係者に配付しております。また、船橋市ホームページ内のいきいきふれあいマップで一般の皆さまも見ることもできます。

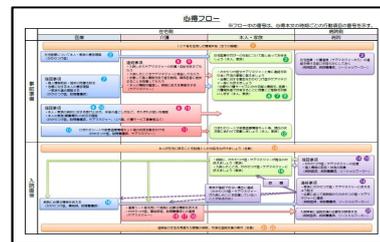
要支援・要介護認定者等を対象に、緊急入院した場合の、本人・家族、医療・介護関係者の安心を確保するため、本人の情報等をケアマネ・訪問看護師等の専門職にお手伝いをいただき記入し、冷蔵庫に保管しておけるシートを作成しました。平成29年8月より社会福祉協議会の「安心登録カード」の登録者にもお配りしております。

## 【ひまわりポイント】



ひまわりネットワークが主催または連携・協力する研修会および講演会（「ひまわりポイント対象」と明記しているもの）に参加した医療・介護関係者に対して「ひまわりポイント」を付与し、ポイントを貯めた方を「ひまわりマイスター」として認定します。

## 【在宅医療・介護連携の心得】



入退院時の連携に関する困りごとを解決するために必要な約束事を「心得」と位置づけ、基本的な行動を明示しました。医療・介護関係者が使用していくことで、入退院時の連携が円滑に行われることが期待できます。なおかつご本人（利用者・患者）やそのご家族も安心して希望する生活を送れるよう支援していくものです（次ページ参照）。

# 【在宅医療・介護連携の心得（説明資料）】

入退院時の連携に関する困りごとを解決するために、医療・介護・本人・家族・病院、それぞれの視点で5つの場面ごとに基本的な行動を明示しています。

## 船橋市における在宅医療・介護連携の心得

高齢者等がいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、地域包括ケアシステムを構築することが急務であり、在宅医療の推進が重要となります。医療・介護がこれまでに以上に連携し、情報の共有を図り的確で迅速な対応を行うことこそ急務と考えます。

そこで、船橋在宅医療ひまわりネットワークでは、医療・介護連携を円滑に行うべく、医療・介護関係者の皆様から入退院における困りごとを聞き、これを解決するために必要な約束事を「心得」と位置付け、基本的な行動等を明示することといたしました。

そして、この「心得」作成の主たる目的は、本人が希望する生活が送れるよう、できる限り在宅に居ることを叶えることにあります。

私たちは、看取りも含め本人が望む暮らしができるように、『生きるための生を見つめ、尊厳を持って生きられるよう支援や環境づくりを行うこと』を目指します。

この心得が皆様の連携のあり方を考える一助となれば幸いです。

平成28年3月  
船橋在宅医療ひまわりネットワーク  
代表 玉元 弘次  
副代表 杉田 勝（親の見える連携づくり委員会リーダー）

※この心得では「本人はすでに介護認定を受けており、ケアマネジャーがついていること」が前提となっております。

●本文①～⑩までの数字は、別添の心得フローと連動しており、数字の色は在宅側（医療→青色、介護→桃色、本人・家族→緑色）、病院側→紫色、共通項目→黄色の色で示しています。

この心得で言う  
・在宅側とは「かかりつけ医（内科系含む）、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー、ヘルパー、リハ職、介護サービス事業者など、在宅療養や施設入所等で本人と直接関わる職種の方々を指します。  
・かかりつけ医とは、通常や訪問診療を含む、普段本人が利用しているクリニック等の医師を指します。  
・病院側とは「病院勤務の様々な職種の方々を指します。問合せ先など各病院によって様々であるため、この心得の中ではあえて限定しておりません。  
・本人とは「介護サービス利用者本人や患病本人を指します。

この心得についてご意見等ございましたら下記のお問合せ先までご連絡下さい。

【問合せ先】  
船橋在宅医療ひまわりネットワーク事務局（船橋市役所 健康政策課 地域包括ケアシステム推進室内）  
〒273-8501 千葉県船橋市湊町2丁目10番25号  
電話：047(436)2354 FAX：047(436)2409

### 事前準備

- 1 病院側・在宅側は、ICT（例：船橋市在宅医療・介護連携支援用患者情報共有システム）等を常日頃から活用し、情報共有を心がけましょう。
- 2 本人・家族は、在宅医療についてどのようにしていきたいのか話し合っておきましょう。また、かかりつけ医は在宅医療について本人・家族に意思確認をおきましょう。
- 3 病院側は、在宅医療・介護連携における連絡窓口を決めておき、円滑な連携となるよう心がけましょう。
- 4 本人・家族は、かかりつけ医やケアマネジャーと常日頃から連絡を取るなど、困りごとや不測の事態に備えられるようにしましょう。
- 5 ケアマネジャーは、本人・家族に自分の所属と名前を覚えてもらい、入院した場合は、病院にケアマネジャーが寝てあるかを伝えてもらうように話しておきましょう。
- 6 ケアマネジャーは、本人の在宅での生活状況等をしっかりと把握し、入院した場合は出来る限り迅速に病院へ情報提供できるように、準備しておきましょう。また、個人情報等を各関係者へ提供することについて本人・家族に説明し了承を得ておきましょう。
- 7 7 かかりつけ医・訪問看護師は、個人情報等を各関係者へ提供することについて本人・家族に説明し了承を得ておきましょう。また、治療に対する本人・家族の意思を確認しておきましょう。
- 8 本人・家族は、治療や介護サービスに関する個人情報について、医療・介護関係者で共有することに同意とご理解をお願いします。
- 9 在宅側は、本人・家族がどのように病状を受けとめているのか、今後どのような思いを描き、過ごしていきたいのかを確認しましょう。
- 10 在宅側は、本人の希望（場所）の状況を確認しましょう。
- 11 在宅側は、本人がシート・救急車を呼ぶ際の連絡先（例：ひまわりネットワーク）を事前に確認し、必要な準備を代行しましょう。
- 12 本人・家族は、在宅医療・介護連携の重要性を認識し、必要事項を把握し、かかりつけ医などへ相談しましょう。

13 病院側は、在宅医療・介護連携の重要性を認識し、必要事項を把握し、かかりつけ医などへ相談しましょう。

14 病院側は、在宅医療・介護連携の重要性を認識し、必要事項を把握し、かかりつけ医などへ相談しましょう。

15 15 ケアマネジャーは、在宅医療・介護連携の重要性を認識し、必要事項を把握し、かかりつけ医などへ相談しましょう。

心得フローの番号に対応し  
詳細の説明を記載

## 心得フロー

※フロー中の番号は、心得本文の場面ごとの行動項目の番号を示す。





# 【在宅医療・介護連携における人材育成の研修】

研修体系を策定し、「連携」に必要な基礎知識を習得して人材のすそのを広げる「ひまわりスタートアップ研修」と連携を実践的に学び、スキルアップする「ひまわり実践研修」、さらに知識を深めるための「ひまわりアドバンス研修」を実施しています。

(1) **スタートアップ研修**：在宅医療・介護に関する基本的事項を学び、連携に必要な基礎知識の習得を目的に研修を行います。

<p><b>第2回人材育成</b> 船橋在宅医療ひまわりネットワーク 認知症多職種連携</p> <p>認知症患者へは、症状に関わりません。認知症に関わる他の職種が連携することによって、患者様のケアが広がることを目指します。</p> <p>医療・介護 多職種連携 大田区立総合医療センター 船橋市役所</p> <p><b>【研修内容】</b> 1 講義①「認知症」 2 講義②「船橋市」 3 事例検討「他職種連携」</p>	<p><b>第3回人材育成</b> 船橋在宅医療ひまわりネットワーク がん緩和ケア</p> <p>がん患者さん、ご家族の方、医療者、介護者、地域住民の方、それぞれが連携してケアすることによって、患者様のケアが広がることを目指します。</p> <p>医療・介護 多職種連携 大田区立総合医療センター 船橋市役所</p> <p><b>【研修内容】</b> 1 講義①「がん緩和ケア」 2 講義②「がん緩和ケア」 3 講義③「がん緩和ケア」</p>	<p><b>ひまわりスタートアップ研修 (高)</b></p> <p>【スタートアップ研修】では、「連携」の重要性を学び、在宅医療・介護の現状や課題、連携の重要性について学びます。また、連携の実践的な取り組みについて学びます。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>令和3年度ひまわりスタートアップ研修 (中)</b></p> <p>【スタートアップ研修】では、「連携」の重要性を学び、在宅医療・介護の現状や課題、連携の重要性について学びます。また、連携の実践的な取り組みについて学びます。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>令和4年度ひまわりスタートアップ研修 (低)</b></p> <p>【スタートアップ研修】では、「連携」の重要性を学び、在宅医療・介護の現状や課題、連携の重要性について学びます。また、連携の実践的な取り組みについて学びます。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>令和5年度ひまわりスタートアップ研修 (連携編)</b></p> <p>【スタートアップ研修】では、「連携」の重要性を学び、在宅医療・介護の現状や課題、連携の重要性について学びます。また、連携の実践的な取り組みについて学びます。</p> <p>【研修内容】 1. オリエンテーション (15分) 2. 講義 (70分) 3. グループワーク (30分) 4. 意見交換及び質疑応答 (30分)</p>
--	---	--	---	---	--

(2) **実践研修**：他の職種の役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。

<p><b>ひまわり実践</b></p> <p>「ひまわり実践」では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>令和元年度ひまわり在宅医療実践発表会</b></p> <p>【ひまわり実践発表会】では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>船橋在宅医療ひまわり実践発表会</b></p> <p>【ひまわり実践発表会】では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>令和3年度ひまわり実践発表会</b></p> <p>【ひまわり実践発表会】では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>令和4年度ひまわり実践発表会</b></p> <p>【ひまわり実践発表会】では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>令和5年度ひまわり実践発表会</b></p> <p>【ひまわり実践発表会】では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>
---	--	---	--	--	--

(3) **アドバンス研修**：医療介護等あらゆる専門職が、基本的な知識として共有すべき事項について研修を行います。

<p><b>平成29年度ひまわりアドバンス研修</b></p> <p>【アドバンス研修】では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>平成30年度ひまわりアドバンス研修</b></p> <p>【アドバンス研修】では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>平成31年度ひまわりアドバンス研修</b></p> <p>【アドバンス研修】では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>令和元年度ひまわりアドバンス研修</b></p> <p>【アドバンス研修】では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>令和2年度ひまわりアドバンス研修</b></p> <p>【アドバンス研修】では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>	<p><b>令和3年度ひまわりアドバンス研修</b></p> <p>【アドバンス研修】では、船橋在宅医療ひまわりネットワークの役割と自らの役割とを踏まえた、多職種や病院・在宅の連携を実践的に学ぶ研修を行います。</p> <p>【研修内容】 1. 講義 (90分) 2. グループワーク (45分) 3. 意見交換及び質疑応答 (15分)</p>
---	---	---	--	--	--

つかってみよう!

# 船橋市在宅医療・介護連携支援用 患者情報共有システム

## 患者情報共有システムとは

従来、患者宅に置いていた「連携ノート」に代わり、インターネットを用いて多職種間で**リアルタイム**に在宅療養患者の情報を共有するシステムです。

即時に情報の共有ができるため、すぐに患者さんの異変に気づくことができ、**患者さんも安心**して在宅療養生活を送っていただけます。

使用料は**無料**です。

(インターネットの通信費は各自ご負担ください)

※患者さんのページを作成するには、患者さん本人の同意が必要です。

いつでもどこでも  
患者さんの情報が  
つかめる!

### システム利用画面の例



### 血圧・体温などの入力



- 日々変化する患者の状態を“Facebook”や“LINE”などのSNSのタイムラインのような形式で把握、共有することができます。
- 患者の状態を、写真や動画で撮影して、データフォルダにアップロードしたり、訪問看護記録書などの文書データを添付することも可能です!

(出典：株式会社カナミックネットワークホームページ)

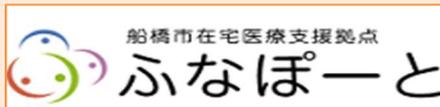
### お問い合わせ



船橋市 健康福祉局 高齢者福祉部 地域包括ケア推進課  
TEL : 047-436-2354 FAX : 047-436-2885  
E-mail : hokatsu-care@city.funabashi.lg.jp

お気軽に  
お問い合わせ  
ください!

# 在宅医療支援拠点ふなぽーとは



在宅医療支援拠点ふなぽーとでは、「定期通院が難しい」「自宅で治療を受けたい」「退院後の訪問診療医を探したい」といった、在宅で療養したい患者さんやそのご家族からの相談に応じます。必要に応じてアウトリーチも実施しています。

また、在宅医療関係者や介護関係者に対しても、情報提供や相談などの支援を行うとともに、船橋在宅医療ひまわりネットワークと連携し、医療・介護連携を進める取り組みを行います。

## ◆在宅医療支援拠点ふなぽーとの主な役割◆



## ■在宅医療・介護に関する市民への普及啓発

- 市民の皆さんが主催する講座等で、求めに応じて在宅医療に関する情報提供等を行います。「まちづくり出前講座」にもエントリーしています。
- 市内で開催される健康や医療に関するイベントにて、普及啓発活動を行います。

### 第5回船橋市在宅医療支援拠点ふなぽーと市民公開講座を実施します！！

日時：令和6年3月9日（土）14：00～16：00（13：30開場）

会場：二和公民館 講堂

定員：200名（要事前予約）

参加費：無料



こちらの二次元コードを読み取っていただくと船橋市ホームページで詳細をご確認いただけます。

本人の意思があいまいな中、どのように決めていくのが望ましいか一緒に考えてみませんか？



船橋市在宅医療支援拠点ふなぽーと

北本町 1-16-55 船橋市保健福祉センター1階

【受付時間】午前9時～午後5時（月曜～金曜）

※土・日・祝日及び年末年始（12月29日～1月3日を除く）

【電話番号】047-409-1736 【FAX 番号】047-409-1912

【E-mail】info@funabashi-zaitaku.com



※1演題につき発表7分・質疑3分・次回準備1分（目安） 各ブロック計45分					
	6階 講堂		5階 第4集会室		6階ロビーと 5階第3集会室
12:00~13:00					12:00~開場 ポスター 見学
13:00~14:10	13:00~ 第2回実践発表会開会式 13:10~14:10 基調講演（船橋在宅医療ひまわりネットワーク 代表 玉元 弘次）				
14:10~14:20	移動・休憩時間				
【第1ブロック ：口述発表】 14:20~15:05 (45分間)	A-1	顔の見える連携づくり委員会の10年間を振り返って (顔の見える連携づくり委員会)	D-1	重層的支援体制整備事業について (船橋市役所 福祉政策課)	
	A-2	医療・介護の連携の“しんか”～医療機関とケアマネジャーとの入退院支援の実態調査から～ (船橋市介護支援専門員協議会、船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会)	D-2	地域ケア会議発「買い物支援」事業の実施 地区社協・地区在支・地区事業所の連携 (軽費老人ホーム福寿荘・大穴在宅介護支援センター)	
	A-3	当法人における在宅医療介護連携におけるICTの活用～カナミックネットワークを利用して (いけだ病院)	D-3	地区研修を通してインフォーマルサービスとの連携と構築について～研修を通じ地域資源となる人材を育てる～ (船橋市介護支援専門員協議会 東部地区)	
	A-4	船橋市在宅医療・緩和ケア・リハビリテーション提供機関マップ“ひまわりマップ”の活用方法と事例 (資源情報管理委員会)	D-4	塚田の会と地域住民のゆるやかな連携 (塚田の会・塚田地域包括支援センター)	
15:05~15:15	【第1ブロック：ポスター前で質疑応答】				
【第2ブロック ：口述発表】 15:15~16:00 (45分間)	B-1	失語がある人の意思決定支援も支える意思疎通支援者 (千葉県言語聴覚士会)	E-1	ひまわりスタートアップ研修（連携編）の振り返りとこれからの形～意思決定に関する共通理解をふまえて～ (人材育成委員会)	ポスター 見学
	B-2	地域在宅医療における総合病院 歯科・口腔外科の役割 (船橋中央病院)	E-2	喀痰吸引等3号研修における患者団体の関わりと「訪問介護みかん」の3号研修の実践経過 (訪問介護 みかん)	
	B-3	船橋市における摂食嚥下の取り組み (船橋歯科医師会 船橋市かざぐるま休日急患・特殊歯科診療所)	E-3	医療的ケアの必要な難病患者の在宅支援と人材育成 (訪問介護 みかん)	
	B-4	「8029ハチマルニク」は希望の言葉 (船橋歯科医師会、千葉県歯科医師会)	E-4	脳血管疾患患者の在宅復帰を支える人材育成について～全国の回復期リハ病棟と当院の比較～ (船橋市立リハビリテーション病院)	
16:00~16:10	【第2ブロック：ポスター前で質疑応答】				
【第3ブロック ：口述発表】 16:10~16:55 (45分間)	C-1	認知症の人と家族への支援 (認知症の人と家族の会 千葉県支部)	F-1	船橋南部在宅療養研究会の歩み (船橋南部在宅療養研究会)	ポスター 見学
	C-2	訪問介護から利用され、定期巡回へ移行後、医療連携をして自宅でご逝去された事例 (生活クラブ風の村定期巡回ステーション高根台)	F-2	船橋市における地域リハビリテーション地区勉強会実践報告 (船橋市リハビリセンター)	
	C-3	看取りってどんなことをするの？ 介護士が看取りに関わり感じたこと (介護老人保健施設フェルマータ船橋)	F-3	一般社団法人千葉県理学療法士会 在宅医療・介護支援部における持ち上げないケア普及の取り組み (千葉県理学療法士会 在宅医療・介護支援部)	
	C-4	介護職との密な連携（定期巡回・随時対応型訪問介護看護の強みを活かした取り組み） (けあらぼ24船橋行田)	F-4	当院での自動車運転再開支援と携わるスタッフの人材育成 (船橋市立リハビリテーション病院)	
16:55~17:05	【第3ブロック：ポスター前で質疑応答】				
17:05~17:10	閉会式				
17:10	全体終了				



第1部ブロック（14：20～15：05）

演題番号【A-1】

演題名：顔の見える連携づくり委員会の10年を振り返って

演者名：船橋在宅医療ひまわりネットワーク 顔の見える連携づくり委員会リーダー  
介護支援専門員 杉田 勝 氏（船橋在宅医療ひまわりネットワーク 副代表  
船橋市介護支援専門員協議会 会長）

要旨：地域医療・介護連携の充実を図ることを目的として、当委員会で2016（平成28）年10月に運用を開始した「船橋市における在宅医療 介護連携の心得」の今と明日への新たな展開「心得から心構えへ」を発表する。

演題番号【A-2】

演題名：医療・介護の連携の“しんか”  
～医療機関とケアマネジャーとの入退院支援の実態調査から～

演者名：船橋市介護支援専門員協議会 介護支援専門員 佐藤 高広 氏  
（共同演者）船橋市介護支援専門員協議会 杉田 勝 氏・鈴木 ひとみ 氏・三井 陽子 氏  
船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会 浪川 綾子 氏・村井 裕子 氏

要旨：コロナ禍でケアマネジャーと医療ソーシャルワーカー等の対面研修が難しく「顔の见えない」連携が余儀なくされた。そのため医療と介護の連携について各々にアンケートを実施し、実態の把握と今後の課題を発表したい。

演題番号【A-3】

演題名：当法人における在宅医療介護連携におけるICTの活用  
～カナミックネットワークを利用して

演者名：医療法人社団睦会 いけだ病院  
ソーシャルワーカー 三井 香苗 氏

要旨：平成25年訪問看護ステーション立ち上げ時に利用していたMCSを、地域との連携の為平成30年に船橋市が採用したカナミックに移行した。医師・訪問看護師・調剤薬局・ケアマネ等との連携の実際について報告する。

演題番号【A-4】

演題名：船橋市在宅医療・緩和ケア・リハビリテーション提供機関マップ  
“ひまわりマップ”の活用方法と事例

演者名：船橋在宅医療ひまわりネットワーク 資源情報管理委員会リーダー  
薬剤師 杉山 宏之 氏（一般社団法人 船橋薬剤師会 会長）

要旨：在宅医療・緩和ケア・リハビリテーションを実施している医療機関等を紹介する“ひまわりマップ”を毎年作成しており、今回は実際の活用事例を交えて“ひまわりマップ”の活用方法と今後の課題について紹介する。

第2ブロック（15：15～16：00）

演題番号【B-1】

演題名：失語がある人の意思決定支援も支える意思疎通支援者

演者名：一般社団法人 千葉県言語聴覚士会  
言語聴覚士 吉田 浩滋 氏

要旨：一般社団法人千葉県言語聴覚士会は、令和元年より失語症者向け意思疎通支援者の養成を開始、5年間で100名を越える意思疎通支援者を養成しました。派遣は5自治体が実施し、他の自治体には当会が派遣を行っていること、その派遣内容を紹介する。

演題番号【B-2】

演題名：地域在宅医療における総合病院 歯科・口腔外科の役割

演者名：独立行政法人地域医療機能推進機構 船橋中央病院  
歯科口腔外科 歯科医師 高橋 喜久雄 氏  
(共同演者) 歯科口腔外科 小河原 克訓 氏・粕谷 和可葉 氏・平山 幸子 氏・  
鈴木 理絵 氏・才藤 靖弘 氏  
地域連携室 末永 薫 氏・鈴木 康江 氏・加藤 佳瑞紀 氏

要旨：総合病院の歯科・口腔外科は入院ベッドを持つことや、院内の様々な医療機器を活用できることから、顎口腔疾患や嚥下障害に関して市内の在宅医療に貢献できる可能性は高いと考えられ、その概要を報告する。

演題番号【B-3】

演題名：船橋市における摂食嚥下の取り組み

演者名：公益社団法人 船橋歯科医師会  
歯科医師 田代 晴基 氏（船橋市かざぐるま休日急患・特殊歯科診療所）

要旨：「口から食べることを支援し、人としての尊厳を守り、豊かな人生を過ごしてもらおう」ことをテーマに、摂食栄養サポート勉強会を開催している。令和5年2月に第19回を迎え、過去の振り返りとともにここに報告する。

演題番号【B-4】

演題名：「8029ハチマルニク」は希望の言葉

演者名：公益社団法人 船橋歯科医師会、一般社団法人 千葉県歯科医師会  
歯科医師 飯島 美智子 氏  
(共同演者) 砂川 稔 氏・赤岩 けさ子 氏・大河原 伸浩 氏

要旨：千葉県歯科医師会は、食事で健康寿命を伸ばそう！80歳になっても肉に代表される良質なタンパク質を摂り、口腔機能を維持し、何でも食べられる口を作り、フレイルを予防しようと取り組んでいる活動を紹介します。

第3部ブロック（16：10～16：55）

演題番号【C-1】

演題名：認知症の人と家族への支援

演者名：公益社団法人 認知症の人と家族の会 千葉県支部  
世話人 乾 麻由美 氏

要旨：家族の会の活動は「つどい」「会報の発行」「電話相談」を三本柱にして、ピアサポートに重点を置きながら本人と家族の支援を行っております。市や多職種の皆様と連携してよりよい支援を目指している活動を報告する。

演題番号【C-2】

演題名：訪問介護から利用され、定期巡回へ移行後、医療連携をして自宅でご逝去された事例

演者名：生活クラブ風の村定期巡回ステーション高根台  
介護福祉士 吉田 賀子 氏

要旨：家事の援助を必要として訪問介護から利用。数年経つ中で体調の変化に伴い、1日複数回の介護の必要性から定期巡回へ移行。訪問診療や訪問看護と連携して自宅での最期を迎えた方の事例を報告する。

演題番号【C-3】

演題名：看取りってどんなことをするの？  
介護士が看取りに関わり感じたこと

演者名：介護老人保健施設フェルマータ船橋  
介護福祉士 内田 茜 氏

要旨：当施設は超強化型老健として在宅復帰・在宅生活支援に力を入れてきた。その一方、慣れ親しんだ当施設で最期を迎えたいと希望が増え、老健で行う看取りケアのあり方を考え、まとめたので報告する。

演題番号【C-4】

演題名：介護職との密な連携（定期巡回・随時対応型訪問介護看護の強みを活かした取り組み）

演者名：MANA訪問看護ステーション けあらぼ24船橋行田  
看護師 伊崎 藍 氏

要旨：認知機能の低下に伴い身体的機能が低下していく患者様が、定期巡回・随時対応型訪問介護看護利用したことでの自宅で過ごす選択が増えた。この強みを活かした関わりについて報告する。



第1部ブロック（14：20～15：05）

演題番号【D-1】

演題名：重層的支援体制整備事業について

演者名：船橋市役所 福祉政策課  
事務職 野中 秀樹 氏

要旨：断らない相談支援事業「重層的支援体制整備事業」は、本人の属性を問わない支援であり、ひまわりネットワークに所属するすべての事業者サービスの利用者のQOL向上に資するもの。事例を交えて紹介する。

演題番号【D-2】

演題名：地域ケア会議発「買い物支援」事業の実施  
地区社協・地区在支・地区事業所の連携

演者名：軽費老人ホーム福寿荘  
社会福祉士 石神 敏明 氏  
（共同演者）大穴在宅介護支援センター 大野 三夫 氏

要旨：地域ケア会議にて話題となっていた地区住民の買い物難民に対する支援について、地域ケア会議メンバーの協同による「買い物支援バス」運行サービスを開始しました。その始まり方と事業の進捗について報告する。

演題番号【D-3】

演題名：地区研修を通してインフォーマルサービスとの連携と構築について  
～研修を通じ、地域資源となる人材を育てる～

演者名：船橋市介護支援専門員協議会 東部地区役員  
介護支援専門員 入谷 康弘 氏  
（共同演者）三山 紀子 氏・加藤 美香 氏

要旨：船橋市介護支援専門員協議会では各地区で年2回の研修を開催している。今回東部地区で地域の社会資源として大きな役割を持つ民生委員と生活コーディネーターを招いての研修を開催したので報告する。

演題番号【D-4】

演題名：塚田の会と地域住民のゆるやかな連携

演者名：塚田の会  
介護支援専門員 杉山 弘明 氏（礎居宅介護支援センター船橋）

要旨：塚田の会は令和2年に塚田地域の介護保険事業所を中心として発足。会則なし、役員なし、会費なしで「多職種連携+地域」をモットーに勉強会や交流会を年6回程ゆるやかにしている多様性豊かな組織の活動を報告する。

第2ブロック（15：15～16：00）

演題番号【E-1】

演題名：ひまわりスタートアップ研修（連携編）の振り返りとこれからの形  
～意思決定に関する共通理解をふまえて～

演者名：船橋在宅医療ひまわりネットワーク 人材育成委員会  
看護師 佐々木 ゆかり 氏（船橋市在宅医療支援拠点ふなぽーと 総括者）

要旨：平成28年から開催している、人材育成委員会のスタートアップ研修（連携編）の振り返りと、人生会議の重要性が広がっている現在をふまえ、今後の研修会等の在り方など、まとめて発表する。

演題番号【E-2】

演題名：喀痰吸引等3号研修における患者団体の関わりと「訪問介護みかん」の3号研修  
の実践経過

演者名：訪問介護 みかん  
介護福祉士 大山 孝二 氏

要旨：介護保険制度導入から2年後患者団体では待望の大臣陳情が行われ、実質的違法性阻却を経て社会福祉士及び介護福祉士法の一部が改正されました。それからの訪問介護みかんの3号研修推移を報告する。

演題番号【E-3】

演題名：医療的ケアの必要な難病患者の在宅支援と人材育成

演者名：訪問介護 みかん  
介護福祉士 柴田 綾香 氏（サービス提供責任者）

要旨：医療的ケアが必須な利用者に対して現介護保険制度だけでは家族への負担や利用者本人の生活の質そのものが置き去りになってしまっていることを考え障害福祉制度を併用したサービスの提供の実施と人材育成について紹介する。

演題番号【E-4】

演題名：脳血管疾患患者の在宅復帰を支える人材育成について  
～全国の回復期リハ病棟と当院の比較～

演者名：医療法人社団輝生会 船橋市立リハビリテーション病院  
理学療法士 加辺 憲人 氏  
（共同演者）石原 健 氏・角田 公啓 氏・梅原 啓子 氏・高本 真紀子 氏・  
前田 尚賜 氏・橋本 美奈子 氏・高野 麻美 氏・野口 陽介 氏・  
加納 知明 氏

要旨：過去10年分の脳血管疾患に関連する当院の実績を全国と比較し、船橋市民の在宅復帰を支える市立病院としての役割を果たしているのかを確認する。また在宅復帰を支える人材育成・環境を整理して報告をする。

第3部ブロック（16：10～16：55）

演題番号【F-1】

演題名：船橋南部在宅療養研究会の歩み

演者名：船橋南部在宅療養研究会  
社会福祉士 増谷 征史 氏（医療法人弘仁会 板倉病院）

要旨：船橋南部在宅療養研究会は平成19年に顔が見えるネットワークの構築を目的に立ち上げ、年8回講演会を開催し多くの専門職の方に参加いただいています。ひまわりネットワーク10周年の節目に振り返りを発表する。

演題番号【F-2】

演題名：船橋市における地域リハビリテーション地区勉強会実践報告

演者名：医療法人社団輝生会 船橋市リハビリセンター  
副センター長 社会福祉士 江尻 和貴 氏

要旨：船橋市における地域リハ活動の一つに地区勉強会がある。地区勉強会は、関係職種の方とともに、その時課題と感ずることを取り上げテーマとし主に事例検討を行ってきた。過去37回開催した内容を振り返り報告する。

演題番号【F-3】

演題名：一般社団法人千葉県理学療法士会 在宅医療・介護支援部における  
持ち上げないケア普及の取り組み

演者名：一般社団法人千葉県理学療法士会 在宅医療・介護支援部  
理学療法士 米澤 卓 氏（介護老人保健施設 船橋うぐいす園）

要旨：千葉県理学療法士会 在宅医療・介護支援部では、2023年度より新たに、理学療法士に対する持ち上げないケア普及の取り組みを開始した。今回、その準備や研修会の様子、参加者の反応、今後の計画などを紹介する。

演題番号【F-4】

演題名：当院での自動車運転再開支援と携わるスタッフの人材育成

演者名：医療法人社団輝生会 船橋市立リハビリテーション病院  
作業療法士 釣 裕太 氏  
（共同演者）歌津 和人 氏・前田 尚賜 氏・小池 正敬 氏・峯下 隆守 氏

要旨：当院では脳損傷患者を対象に、医師と作業療法士が中心となり自動車運転再開支援を実施しています。支援方法の統一化を図る為、マニュアルの整備を行い、外来作業療法士全員が支援を行える様に取り組む活動を報告する。

～ ×E ～

~ ×E ~

# 船橋在宅医療ひまわりネットワーク構成団体

一般社団法人 船橋市医師会  
公益社団法人 船橋歯科医師会  
一般社団法人 船橋薬剤師会  
公益社団法人 千葉県看護協会  
一般社団法人 千葉県理学療法士会  
一般社団法人 千葉県作業療法士会  
一般社団法人 千葉県言語聴覚士会  
一般社団法人 千葉県歯科衛生士会  
船橋市介護支援専門員協議会  
船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会  
ふなばし市訪問看護連絡協議会  
船橋市訪問介護事業者連絡会  
一般社団法人千葉県在宅サービス事業者協会  
船橋市栄養士会  
船橋市介護老人保健施設協会  
船橋市老人福祉施設協議会  
船橋市認知症高齢者グループホーム連絡会  
NPO 法人千葉・在宅ケア市民ネットワークピュア  
船橋市回復期リハビリテーション病棟連絡会  
船橋市訪問リハビリテーション連絡会  
船橋市通所リハビリテーション連絡会  
船橋市デイサービス連絡会  
船橋市障害福祉施設連絡協議会  
船橋市小規模多機能型居宅介護連絡会  
船橋市定期巡回・随時対応型訪問介護看護連絡会  
公益社団法人認知症の人と家族の会 千葉県支部  
千葉県認知症疾患医療センター 千葉病院  
船橋市